

「地方でもできること、 地方だからこそできること」

技術の発展がもたらすもの

3D（スリーディー）と聞いて皆さんは、何を最初にイメージするでしょうか。映画やテレビ、ゲームなど、普段生活している中で、3Dという言葉を目にすることが増えてきているのではないのでしょうか。

3D技術は、近年、目覚ましい成長を遂げています。昔は物をつくる際に紙に鉛筆で物を上から見た図や正面から見た図、側面から見た図などの設計図面を手書きで書いていました。それがコンピュータの発展により、設計図面の線をコンピュータで綺麗に描けるようになり、現代では、立体そのものをコンピュータ上に作成して、質量計算や構造計算、組立検討、ビジュアル確認などができるようになり、より安全なものを、より早く作れるようになりました。

私の仕事は、そんな便利な3D技術を岩手県内に普及することです。3D技術は便利な反面、習得するには時間がかかります。できるだけ早く習得してもらい、業務の効率化や新しい製品をつくり出すためのサポートをしています。

定期的に講習会を開催したり、個別のオーダーに合わせた講習を行ったり、高校や大学などに訪問して教えたり、将来を担う小学生などに訪問して教えたり、将来を担う小学生、中学生の子供たちに体験会なども行っています。できるだけ早いうちに3D技術に触れてもらうことで、将来の選択肢を増やしてもらいたいという想いと、今後益々、3D技術が身近なものになっていき、私たちの生活を豊かにしてくれると感じているためです。

例えば、3Dプリンタという機械を使用し、自分がコンピュータでデザインしたものを3Dプリントして実際の物にすることができます。まだまだ高価ではありますが、近い



株式会社北上オフィスプラザ
いわてデジタルエンジニア育成センター
(北上市)
副センター長兼主任講師
小原 照記

将来、自分の欲しいものを自分でつくれるようになります。また、VR（ブイアール・バーチャルリアリティー）技術を活用することで、仮想の世界を体験することができ、実際に足を運ぶことが難しい場所に行く体験ができたり、手術前のシミュレーションができたり、家を建てる際の検討などをリアルに行えます。

地方こそ情報発信

3D技術を多くの人に知ってもらうために、SNSやブログなどで情報を定期的に発信するようにしています。自分の持っている知識や経験をできるだけ多くの人のために役立たせたいという想いから、惜しみなく情報を提供しています。

ネット社会の今、自分だけ情報を隠し持っていて意味がないと考えます。いくら素晴らしい技術があっても情報を発信しないと誰

も気付いてくれません。良い仕事をしていれば、いつか誰かが気付いてくれるという考え方もありますが、自分からチャンスを掴みに行くために情報発信は大事だと考えます。

岩手県民には自分を発信するということが苦手な人が多いと感じます。謙虚であるという良い意味での捉え方もありますが、自分達のことをもっと発信して知ってもらうことで同じ考えを持った人との新しい出会いや仕事につながっていくと思います。自分の得意なことや趣味などで得た知識は、どんどん発信していくべきです。

情けは人の為ならず

3D技術を普及するための活動として、情報発信の他にも、ネット上で困っている人にアドバイスすることもしています。コミュニティサイトやSNSなどに使い方が分からなくて困っている投稿があった場合に、画像や動画を作って回答しています。「情けは人の為ならず」と言いますが、これにより、操作する際にどこでつまずきやすいのかわかることができます、私自身、より分かりやすい講習を実施するための役に立っています。困っている人を助けたい、役に立ちたいという気持ちと人から感謝される喜びから行っています。

Give & Take (ギブ・アンド・テイク) という言葉がありますが、私は5 Give &

1 Take、5つ与えて、何か1つでも自分に返ってくれば良いという気持ちで活動しています。それが長続きの秘訣かもしれません。

日本人初の資格取得と世界一の表彰

このような活動を続けたことで、2016年8月には、東北地方では初めての(*)オートデスク・エクスパートエリートの認定を受けました。また同年11月には、日本人で初めて次世代型クラウドベース3DCAD (キヤド Fusion 360 (フュージョンスリッシュクスティー) ユーザー試験に合格、翌年2017年12月には、3DCADの操作を説明する動画サイト (Screen cast) の閲覧回数部門で世界一の表彰を受けました。これらの結果は、地方においても最新技術は学



子供たちに3Dプリンタについて説明

ぶことができ、技術があれば、都会に負けないことができるという私の想いがあり、それを証明することができ非常に嬉しい出来事でした。私は特別頭が良いわけではなく、自分自身ができることをコツコツと行い、少しずつできないことにもチャレンジしていった結果だと思っています。

人材から人財へ

私のメインの仕事として、人材育成があります。人は財産です。その財産を大切に育てていくことが、地域の明日を拓く扉のカギではないでしょうか。優秀な人がいる所には、他からも優秀な人や企業が集まるようになり、より豊かな街になっていくことでしょう。そのため活動を微力ながらも今後続けていきます。私は多くの人との出会いによって、自分自身が成長できています。そのことに感謝しつつ、日々精進してまいります。

地方にいるから夢を諦める、やりたいことができないということではなく、どこに住んでいても、できることはあるし、そこにいるからこそできることがきつとあるはずですよ。

※編集部注

オートデスク社は、コンピュータによる設計図作成支援を行うCADソフトを提供する米国の企業。その「エクスパートエリートプログラム」は、世界で2億人が利用する同社の3DCADソフト「Fusion 360」等のユーザー支援に多大な貢献を行う個人を認定・表彰する制度。